

(IV-3) ライフサイクルステージをふまえた自動車免許非保有者の交通行動分析

群馬大学大学院 学生会員 高橋 慶子
 群馬大学工学部 正会員 青島縮次郎
 群馬大学工学部 正会員 磯部 友彦

1.はじめに

モータリゼーションの進展は一般に入々のモビリティを高め、多くの活動への参加を促す。しかし、それは自動車を利用できる人々に限られたものであり、免許非保有者にとっては公共交通サービス水準の低下によりモビリティの確保が一段と困難になる。群馬県における交通状況はまさにこのような状況にあり、急速に道路整備を行う必要に迫られると同時に、公共交通の衰退をくい止める必要もある。そこで本研究では、一般にモビリティが低いとみなされる免許非保有者に注目し、その交通行動の現状について分析する。また、群馬県における世帯の構成は多世代世帯が多く、このことにより家族に支援されて交通行動を行っている人々も多いと思われる。よって本研究では、そのような地域において、免許保有者との対比でみた免許非保有者（18才未満の子供や高齢者、主婦に多い）の交通行動を明らかにし、その際、世帯の形、即ちライフサイクルステージ（以下、LCSと略記）に着目し、世帯関係を考慮した分析を行うことによって各々の交通行動の現れ方の違いを考察するものである。

2. 分析データ

本研究では平成元年度に群馬県東部と栃木県西部にまたがって行われた両毛パーソントリップ調査で得られたデータ（PTデータ）を使用する。LCSは表-1に示すように国調や住調の世帯パターンの比較のためや調査対象地域に多世代同居世帯が多いことなどを考慮して独自に分類した。さらに、PTデータは世帯の続柄や5才未満の子供の有無などが不明瞭であるので、その続柄を判別する方法として世代による分類を試みた。これは、世帯内構成員の年齢により年齢差が18才以下のものを1つの世代としてまとめ、それに従ってLCSを分類したものである。

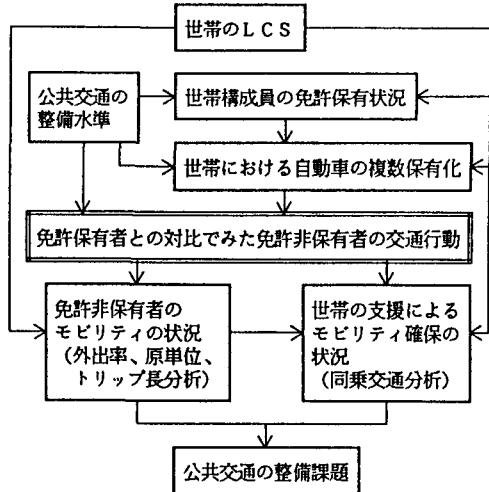
3. 分析フレーム

本研究の分析フレームを図示すると図-1のようになる。これより、本研究では免許保有者との対比でみた免許非保有者の交通行動、免許非保有

表-1 本研究で設定した世帯のライフサイクルステージ（LCS）

同居世帯の年齢	1世代		同居長子の年齢	2世代	3世代	4世代
	単身	夫婦				
3~5歳未満	1 前 期	4 前 期	6歳未満	7 子育て前 期	11 子育て前 期	15 子育て前 期
3~5歳以上	2 中 期	5 中 期	6歳以上	8 子育て中 期	12 子育て中 期	16 子育て中 期
6~5歳未満	6 後 期	6 後 期	18歳未満	9 子育て後 期	13 子育て後 期	17 子育て後 期
6~5歳以上	3 後 期	6 後 期	18歳以上未満	10 既婚	14 既婚	10 既婚
			5歳未満	夫 同	夫 同	夫 同
			6~5歳未満	婦 同	婦 同	婦 同

*表中の数字は、本研究で用いるLCSコード番号を表している



者のモビリティの状況、世帯の支援によるモビリティの確保と世帯のLCSについて、その内容を分析する。

4. 分析結果と考察

LCS別に免許保有者と免許非保有者の交通行動特性の違いを見る。まず、図-2は外出率について示したものである。全体的に免許非保有者は免許保有者に比べて低い。免許保有者はほとんど変化は見られないが、同一世代内において、LCSが成熟するにつれて外出率が下がって行くことがわかる。

また、LCS別に免許非保有者がどのような交通手段を使っているのかを示したのが図-3である。主な交通手段は歩行、自転車、自動車同乗である。ほとんどのLCSに同乗交通が含まれ、かなり高い割合で利用されているLCSもある。そこで世帯内でどのように同乗交通を行っているのかを調べるために、誰が誰を同乗させているかという同乗関係を同乗トリップ毎に性別年齢別に集計した。図-4はLCSで区別しない場合の結果であり、35~65才の男性は35~65才の女性を、女性は18才未満の子供を同乗させていることが分かる。特徴的な同乗関係が現れているLCSについて同様に図示すると、図-5、6のようになる。2世代子育て中期は子供が18才未満であるため、両親が子供を同乗させる率が高い。また、3世代子育て中期も2世代子育て中期とほぼ同様であるが、3世代ということで65才以上の高齢者を35~64才の女性が同乗させる、または高齢者同士で同乗するという二つの高齢者の同乗関係がみられる。このように、LCSによって同乗交通の状況が異なることがわかる。

5. まとめ

以上の分析より明らかになったことをまとめると次のようになる。

①免許非保有者は、免許保有者に比べ外出率が低く、世帯の構成によって交通特性が変化することが明らかになった。

②同乗交通は、免許非保有者の主要な交通手段の一つとして利用されている。また、同乗交通の運転者と同乗者の統柄はLCS別に異なることがわかった。

LCSによる交通行動の相違を明らかにし、その有効性を統計的に分析することが今後の課題である。

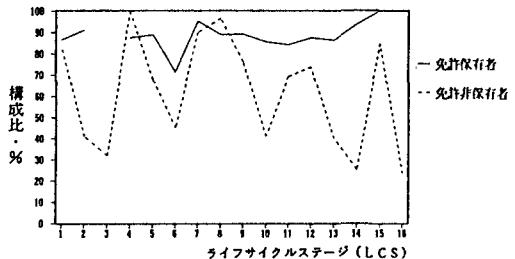


図-2 LCS別免許保有非保有者別外出率

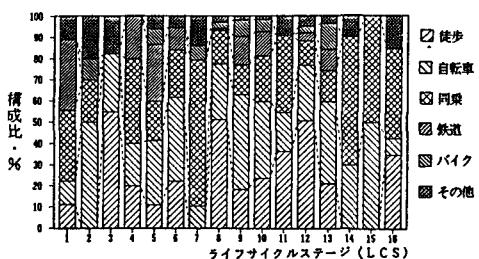


図-3 LCS別免許非保有者手段分担率

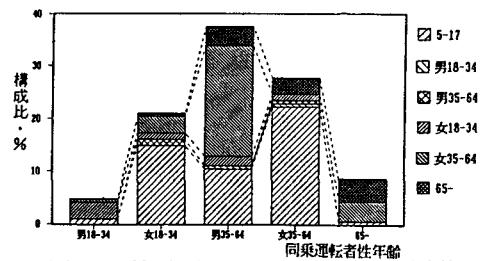


図-4 性別年齢別同乗者同乗運転者構成比

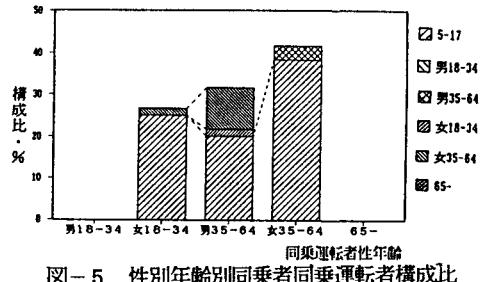


図-5 性別年齢別同乗者同乗運転者構成比 (2世代子育て中期)

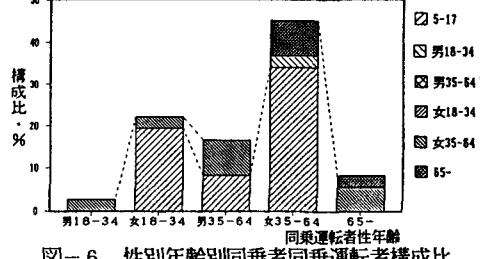


図-6 性別年齢別同乗者同乗運転者構成比 (3世代子育て中期)